二、階級對立の尖銳化

（イ）最初の出發點から、アジア大陸への帝國主義的××と國內勞農大衆に對する極端なる搾取とを條件として發展して來た日本資本主義は、最近に至つて、更に一段とその攻勢的態度を露骨にした。彼等は、當面の經濟的危機を乘りきるために、一方に於ては滿洲支那への侵略的進出を企て、他方、國內の勞働者、農民、無産市民への負擔を益々加重し、その犧牲によつて、僅に血路を求めようとしてゐるのである。

（ロ）今や、各産業を通して賃銀値下げ、賃銀不拂ひ勞働の強化等々が行はれ、大量的馘首は未曾有の廣範圍に亘つて斷行され、失業者の大群は、文字通り街にみちてゐる。（昭和三年度には既に八十萬の失業者があつたが、その後、昭和四年度には約二十四萬人の失業者を出し、更に今年度上半期に於て約二十二萬人の失業者を出すに至つた。かくして今や約百五十萬の勞働者が失業狀態の下に苦しんでゐる。しかもその數は、現在益々增加しつゝある）かくして全勞働者が――既に就業してゐる勞働者も、――不斷に失業の脅威に惱まされてゐる。

（ハ）だが、勞働階級も、無論 彼等の攻勢に甘んじて屈服してはゐない。一九三〇年度に於ては、ストライキは未曾有に廣汎なる範圍に亘り、その參加人員も明かに激增してゐる。しかも、それらのストライキ鬪爭は、その大部分がかなり尖銳化されたる形態に於て鬪はれた。官憲、暴力團、等々に對する血みどろの鬪爭が常に不可避的に繰返されて來た。一般勞働者大衆の戰鬪化は最早如何なる暴力をもつてしても阻止し得ない勢ひを示してゐる。

（ニ）地方、農村に於ても、農業恐慌が益々深刻化し、且つブルジョア政府並に地主の攻勢が益々激化しつゝあるので農民の生活は極度に慘憺たる狀態の下におかれてゐる。米價繭價は慘落し、全國數百萬の貧農農家は死地に追ひつめられ、米、麥、等々の價格も到底生産費に及ばない狀態に在る。しかも、都市に於ける失業者の大衆が「歸農」する傾向に在るので、土地飢饉は益々猛烈になり、かて加へて、約六十億の借金と不當に高き稅金とが農民の生活を窮迫のドン底に陷れてゐる。しかも、地主の猛襲はブルジョア權力の擁護の下に、最近、一段と强化され、立毛差押へ、立入禁止、土地取り上げ、等々が無遠慮に斷行されるやうになつて來た。それに對する農民の逆襲的攻勢も無論全國各地に燃え上がり、それらは多くの場合、流血の犧牲を伴つてゐる。一般農民の戰鬪化はやきはめて顯著なる事實である。

（ホ）無産市民の生活もむろん悲慘な狀態にある。下級俸給生活者は、勞働者と同じく不斷に馘首――失業の脅威にさらされ、その給料は無遠慮に減額されつゝある。更に小賣商人は、大資本の壓迫と不景氣との爲に、全く身動きの出來ぬ狀態に置かれてゐる。しかも、比類なき重稅と、高價なる家賃、ガス電燈料、等々は、無産市民をして、いや應にも蹶起せざるを得ないやうな狀態に追ひつめてゐる。一九三〇年の初頭以來、全國各地に卷起つた自然發生的な家賃値下げ運動、電燈料値下げ運動、稅金滯納運動、等々は、無産

市民の生活の窮迫化と、一般市民の戰鬪化とを我々の前に顯示してゐるものである。

（ヘ）廣汎なるプロレタリアート大衆、農民、並に無産市民の戰鬪化と、資本家地主のあくなき攻勢とによつて、まさに全土に××戰が演ぜられつゝあるとき、資本家地主の政府の專制的支配は、いやが上にも兇暴化しつゝある。××主義者及び革命的勞働組合員に對する極めて野蠻なる追及。種々の反動的法律の制定――治安維持法以下の反動法に加へて、更に反動的勞働組合法、反動的小作組合法、等々を制定せんとする彼等の意圖を粉碎せよ！――更に全國家權力を擧げての産業合理化政策の遂行、支持。あらゆる經濟鬪爭の調停に於ける狂暴極まりなき彈壓。一切の社會民主々義者との協定等々、要するに今や資本家地主の政府は最も深刻なる經濟的危機に際會して、愈々その反動的本性を發揮し、まさに言葉の正確なる意味に於けるファシズムへの急轉向を遂げつゝあるのである。

（ト）資本家地主並に その政府の攻勢に對しては、勞働者農民の陣營に今如何に組織されてゐるか？

第二部　無産階級陣營の現勢

（A）概　觀

一、大衆の戰鬪化と指導力の減退

（イ）未曾有の經濟的危機と帝國主義戰爭切迫の情勢を前にして今や數十萬、數百萬の大衆が鬪爭へ動員され、最も遲れた勞働者農民さへもが、いや應なしに運動の中へかり立てられてゐる。――これが現在の大衆であるが、しかし、それらの大衆の戰鬪的能力を充分に組織化し、それをマルクス主義の方向へ發展せしめる爲の指導力は、殘念ながら、極めて不十分である。「大衆の强大なる能力とそれに對する指導力の不足」これが、當面のわが無産階級陣營の現實の姿である。我々の中心問題は、如何にして强大なる指導力を築き上げるかにある。

（ロ）、我左翼陣營の指導力の減退は、無論、支配階級の死に物狂ひの彈壓、徹底的スパイ政策、並に彼等の巧みなる逆宣傳及今や全く支配階級の協同者として活躍しつゝある社會民主主義者共のバッコ等々が、その最も根本的なる原因をなしてゐる事は疑ひもなき事實であるが、他方にまた、我左翼陣營の當面の救ひ難い混亂狀態が多分にその原因をなしてゐることも、我々が卒直に認めなければならないことである。

（ハ）現在、わが左翼陣營は、極度の混亂狀態に陷つてゐる。何等對立の必然性なきところに、觀念的對立が行はれ、全勢力の協力が要求されてゐるときに、分裂政策が斷行され、それでなくてさへ微弱な左翼陣營は、ために一層その勢力を減殺され、言ひやうもなき混亂が我々の全陣營を支配してゐる。何故我々はかゝる混亂を克服し得ないのか？無論それには種々の極めて複雜なる諸原因がある。だが究極のところそれらは、それを克服し得るところの、眞に强大なるプロレタリアートの指導部が、まだ充分に確立されてゐるな